

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 837 号	氏名	赤星 衣美
学位審査委員	主査	森内 浩幸	
	副査	弦本 敏行	
	副査	高村 昇	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、わが国における低出生体重児の増加の主因と考えられる SGA (Small for Gestational Age)児の頻度増加の原因を調べるために、母体の妊娠前の BMI、妊娠中の体重増加量、または母体の喫煙習慣がどのような影響を及ぼすのかを評価したもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>長崎県内の診療所・病院の分娩症例において、母親は年齢、病歴、妊娠前の体重と BMI、妊娠中の体重増加量、喫煙状況、妊娠中の合併症について、新生児は出生時体重、身長、性別について調査し解析したもので、SGA 児と AGA (Appropriate for Gestational Age)児をもつ母親の比較を t 検定と <math>\chi^2</math> 二乗検定によって、各要因と SGA 児出産との関連を多重ロジスティック回帰分析によって解析したもので、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で回収した臨床検体を解析した結果、妊娠前に低体重の女性が 20.8%存在し、それが SGA 児出生に有意に関連し、多重ロジスティック回帰分析では <i>borderline</i> の関連を示した。また妊娠中の体重増加量が推奨レベルを下回る場合や母親の喫煙習慣は、多重ロジスティック回帰分析でも有意に SGA 児出生に関わることを明らかにし、今後妊婦の健康管理における介入研究への進展が大いに期待される。</p>			
<p>以上のように本論文は産科学および公衆衛生学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			